

# 十和田市事務事業評価シート

## 【事務事業の概要】

整理番号	57	実施計画番号	9
事務事業名	下水道の整備		
個別事業名		事業開始年度	昭和47年度
担当課名	下水道課	事務の種類	自治事務
根拠法令等	十和田市下水道条例 第1条 十和田市下水道整備基本計画	関連事務事業	
背景や経緯等	十和田市の公共下水道は昭和47年度に都市計画決定を受けて整備に着手している。その後、農業集落排水事業等を実施したが、現在は公共下水道と浄化槽整備事業で、下水道整備を進めている。		
事務事業の目的	快適な住環境の整備と、湖や河川など公共用水域の水質保全に向け、下水道施設の整備を進める。		
実施状況	公共下水道は、西金崎地区及び元町東地区を重点的に整備し、浄化槽整備事業では、29基の浄化槽を設置した。		

## 【人件費の推移】

		22年度実績	23年度実績	24年度計画
正職員	従事者数(人)	13	13	13
	活動日数(日)	243	243	243
	人件費(千円)	113,724	113,724	113,724
正職員以外	従事者数(人)	2	2	2
	活動日数(日)	222	222	222
	パートタイマー 人件費(千円)	1,732	1,732	1,732

## 【事業費の推移】

		22年度実績	23年度実績	24年度計画
事業費合計(千円)		1,004,138	722,828	548,300
うち一般財源				
うち国県支出金		429,251	299,585	226,600
うち地方債		538,600	385,300	282,800
うちその他		36,287	37,943	38,900

## 【指標】

活動指標	活動指標名①		水洗化率			
	計算式等		単位	22年度実績	23年度実績	24年度計画
	水洗化人口/人口		%	69.6	70.5	72.0
	活動指標名②					
	計算式等		単位	22年度実績	23年度実績	24年度計画
成果指標	成果指標名①		水洗化率			
	計算式等	単位	22年度	23年度	24年度	
	水洗化人口/人口	%	目標値	72.0	72.0	72.0
			実績値	69.6	70.5	
			達成度(%)	96.7%	97.9%	
	成果指標名②					
	計算式等	単位	22年度	23年度	24年度	
		目標値				
		実績値				
		達成度(%)				

# 十和田市事務事業評価シート

整理No	57
計画No	9

## 【担当課による検証】

ポイント		検証	評価	点数	合計	検証の理由						
<b>妥当性</b>	①	<b>市民ニーズ等から見る妥当性</b> 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">存在意義の見直しの余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">下水道施設の整備は、河川の水質保全と市民に快適な環境を提供する。</td> </tr> <tr> <td colspan="2">下水道法で、公共下水道の設置は市町村が行なうものとなっている。</td> </tr> </table>	存在意義の見直しの余地	0 / 4	下水道施設の整備は、河川の水質保全と市民に快適な環境を提供する。		下水道法で、公共下水道の設置は市町村が行なうものとなっている。	
	存在意義の見直しの余地	0 / 4										
下水道施設の整備は、河川の水質保全と市民に快適な環境を提供する。												
下水道法で、公共下水道の設置は市町村が行なうものとなっている。												
②	<b>実施主体である妥当性</b> 行政が実施することが妥当か(民間と競合しているか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2								
<b>有効性</b>	③	<b>活動指標から見る有効性</b> 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">成果向上の余地</td> <td style="text-align: center;">1 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">限られた予算の中で計画的に事業を実施している。それに伴い、水洗化率も順調に向上している。</td> </tr> <tr> <td colspan="2">浄化槽整備事業を、PFI事業により実施しているが、浄化槽の設置数が減少している。</td> </tr> </table>	成果向上の余地	1 / 6	限られた予算の中で計画的に事業を実施している。それに伴い、水洗化率も順調に向上している。		浄化槽整備事業を、PFI事業により実施しているが、浄化槽の設置数が減少している。	
	成果向上の余地	1 / 6										
	限られた予算の中で計画的に事業を実施している。それに伴い、水洗化率も順調に向上している。											
浄化槽整備事業を、PFI事業により実施しているが、浄化槽の設置数が減少している。												
④	<b>成果指標から見る有効性</b> 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2								
⑤	<b>事務事業の見直しの余地</b> 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1								
<b>効率性</b>	⑥	<b>事業費の削減の余地</b> 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">コスト削減の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">経費削減のため下水道の整備手法を、集合処理から個別処理に変更し、その個別処理をPFI事業により実施しており、コスト削減には十分に取組んでいる。</td> </tr> </table>	コスト削減の余地	0 / 6	経費削減のため下水道の整備手法を、集合処理から個別処理に変更し、その個別処理をPFI事業により実施しており、コスト削減には十分に取組んでいる。			
	コスト削減の余地	0 / 6										
	経費削減のため下水道の整備手法を、集合処理から個別処理に変更し、その個別処理をPFI事業により実施しており、コスト削減には十分に取組んでいる。											
⑦	<b>他の事務事業との統合・連携</b> 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2								
⑧	<b>民間委託等</b> 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2								
<b>公平性</b>	⑨	<b>受益の偏り</b> 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">受益者負担適正化の余地</td> <td style="text-align: center;">1 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">整備をした市民から受益者負担金を頂いているが、集排事業に対して、浄化槽整備事業の分担金が高くなっている。</td> </tr> </table>	受益者負担適正化の余地	1 / 4	整備をした市民から受益者負担金を頂いているが、集排事業に対して、浄化槽整備事業の分担金が高くなっている。			
	受益者負担適正化の余地	1 / 4										
整備をした市民から受益者負担金を頂いているが、集排事業に対して、浄化槽整備事業の分担金が高くなっている。												
⑩	<b>受益者負担の見直しの余地</b> 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1								
<b>現在の適性</b>					<b>18 / 20</b>	<b>改善の余地</b>	<b>2 / 20</b>					

## 【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **18** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **2** 点です。

## 【担当課長による評価】

当該事業の平成25年度の方向性

**有効性を改善して継続**

### 方向性の理由

公共下水道は、計画に基づいて継続する。  
浄化槽整備事業については、有効かつ必要な事業であり、今後も普及推進したい。

### 今後の具体的な取組み方策と狙う効果

浄化槽整備事業については、普及促進のため単独助成事業を実施し設置基数の増加を図る。